

合格への軌跡



商学部 男 私立中高一貫 現役 後期

○～3年4月

1年の夏に友人(ここではAとします)から一橋の存在を知る。某T大、K大の次くらいに難しいらしいと聞いて「頑張れば行けるんじゃないか!？」と思い、Aとともに一橋の経済学部を目指すことにする。ただし対策などは一切せず、部活ばかりの生活を送る。2年の最後に初めて受けたマーク模試でAに50点差をつけられ焦る。

○4月～5月

4月のマークは悲惨だった。特に英・国。1年の時に買って手をつけていなかった速単必修編をやろうとするが挫折。部活の友人と「総体が終わった後に頑張ればいいんだよ」とお互いに励ましあう。現代文に危機を感じてセンター対策の問題集を買って解いてみたが、効果は薄かった。

○6月～夏休み前

総体が終わり、部活を引退。達成感と寂しさが残るが、それは自分への言い訳がなくなるということでもあった。家で勉強できない自分に見切りをつけて、予備校の自習室を借りて勉強するようにする。とりあえず以前から持っていた「現代文と格闘する」を解いて国語の先生に添削してもらう。英語は宿題が多くてそれを消化するのに精一杯。世界史はチェックペンで消して緑シートを使って教科書を必死で暗記。数学からはひたすら逃げ回っていた。

○夏休み

世間では勝負の時と言われる夏休み。学校の課外後の午後は自習の時間だったので頑張る予定だったが爆睡。宿題をこなすだけで終わってしまう。勉強は一日約4時間くらいだったと思う。担任に薦められてプラチカを購入するが、1日3問ペースを守れずどんどん遅れていく。

お盆の時期に代ゼミの英・数のサテラインを受講。日頃の勉強をやってない身には辛かったが考え方などを学べてよかった。この頃夏休み前に受けた進研記述模試の結果がC判で返ってきた。自分結構頑張ったなあと思いきや、AはA判。へこんだけど一橋を諦めなくなかった。

○9月～11月

後悔の夏休みが終わり、二期が始まった。危機感から毎朝課外の時間に登校して勉強することにする。勉強すごくはかどる。放課後は予備校の自習室で10時まで粘る。世界史論述の添削を10月あたりから願う。最初のうちはやり方が分からず難しかった。このころからマーク模

試の成績が伸び始める。唯一の楽観要素。記述模試は学校の方針で合計3つ受けた。河合記述ではE判しかとれず、進研では判定がさがる。またしてもへこんだ。そろそろ不合格へのプレッシャーが募ってくる。

10月末と11月の最初に一橋模試を受ける。三大予備校の模試を全て受験するために土曜日に駿台、次の日に河合を受けるというムチャをおかす。英語がまったく読めずに熟睡。結果はもちろん全部最低ランクの判定で、英単語の勉強の必要性を痛感した。一橋模試の後、国語は「現代文と格闘する」が終わり赤本に移る。世界史はZ会の論述テキストを使う。数学はプラチカをだらだら進めるが終わる気配がない。英単語を勉強できないため、赤本にでてきた単語の中で単語帳に出てきたものだけを覚えることにする。

○12月～前期

学校でセンター対策が始まる。足きりが怖いのでセンター対策を頑張り二次対策は休業。だんだんと得点があがってくる。お正月に友人と神社でおみくじをひく。末吉で勉強欄には「基礎がしっかりしていない土台のようなもの。基礎固めをしっかりとやること。」と書いてあり、激しく動揺。

センターでは予想以上に高得点がとれた。大学案内を見ると自分のやりたいことは商学部にあることがわかり、商学部に移る。センター後はひたすら赤本を解く。ただし数学は担任の「的中を狙うのだから過去問をやっても意味がない」ということばに煽られて担任が持ってきた問題を解く。

前期試験は数学が1完2半だった以外はまあまあの出来だった。試験がよく出来た達成感ではなく、試験が終了した達成感を味わう。

○前期後～

前期試験の前日に買った後期の赤本を飛行機のなかで読み、英語の長文の長さで小論文に萎える。まったく勉強したことがなかった小論文を国語の先生に習い、前年度分を3日かけて解く。先生に褒められたので、以後放置。

前期試験の合格発表があり、不合格。浪人への覚悟を固めて東京へ。後期はできが悪く、来年は一橋の後期は絶対に受けないと決意（当時入試制度が変わることは知らなかった）。予備校の説明会やテストに参加して日々をすごし、合格発表当日になる。ネットで奇跡の合格を確認。今に至る。

○終わりに

ここまで読んでくださった皆さんは僕がどんなにへタレか分かったと思います（笑）こんな奴でも合格できたのだからみなさんなら絶対大丈夫です！！頑張ってください。

○情けない成績の数々…

一橋模試 代ゼミ：E 駿台：E 河合：D

センターリサーチ 代ゼミ：A 河合：B 進研：B

センター 合計804/900（89%）

英語：190 リスニング：42 国語：183 数ⅠA：94 数ⅡB：68

世界史：95 倫理：85 生物：93

経済学部 女 私立中高一貫 現役 前期

☆ 合格までの道のり

<5月～夏休み前>

実は私は理系で、5月に文転を決意しました。しかし文転を決意後も、学校では理系の授業を受け続けなければならず結構大変なことに……。社会の選択科目を一橋特有の「倫理政経」にして、倫理の勉強をはじめた。国語は何とかできるだろうと思って、見ぬふりをしてしまった。(←これは結構失敗) 数学は基本的に塾のテキストの予復習を何度もやった。英語は、学校で使っていた単語帳(DUO)+塾の単語テスト+塾のテキストの予復習。

<夏休み>

夏休み前に1時間ごとの完璧な予定をたてたものの、ほぼ実現されず。結局、週ごとにやるべきことをリストアップして、それをこなしていくのが私には一番合っていた。1日10時間くらい勉強したが、テレビを見たり、本を読んだり、音楽を聴いたり(私はこの頃にゆずのファンになった笑)、それなりに息抜きする時間はあったし、むしろその時間がなかったら鬱病になってたはず。

数学や英語は、講習のテキストの予習復習をしっかりとやるだけで精一杯で、過去問には手を付けなかった。倫理政経は、とりあえず基礎知識を一通り頭にたたき込んだ。そして、今まで見て見ぬふりをしていた国語の講習に行った。先生の授業が好きになると同時に、自分の知識のなさに絶望。

<9月～11月>

夏休み直後は、疲れがどっと出てきて失速。「私夏休み何してたんだろう？」が口癖だった。9月後半からなんとか持ち直して、一橋模試に向けて勉強。倫理政経、国語の過去問も夏休み後からちょこちょこやり始めた。一橋模試では、元理系のくせに数学ができないことを痛感して結構凹んだ。しかし倫理政経で思わぬ好成績を残せたのでテンションが上がる。

10月頃から、一橋対策と平行して、本格的にセンター対策と私大対策も開始。あまりの数学のできなさに、早稲田は政経選択で受験することを決意。政経の参考書を買込む。

<12月～センター>

直前期なのに、学校で物理や化学の期末試験があったせいで微妙な気持ちになったのはおいておいて、12月はセンター対策に主軸を移しつつも、しっかり二次対策も行った。塾の予復習は欠かさず行い、数学以外の科目では、時間を計って過去問をひたすら解いた。

1月は、ほとんどセンター対策一色。倫理や国語の論述など、センター対策ではできない部分に関しては勉強を続けた。センター対策を怠ってきたせいで、直前になっても全然できなくて焦った。この頃の焦燥感はハンパなかった。焦れば焦るほど勉強がはかどらずに撃沈した。

センター当日は、友達としゃべったりして比較的落ち着いて受けることができた。が、結果は予想通り。しかも満点を狙った政経で大失敗して凹む。というか友人の成績の良さに圧倒された。前期の足切りは回避できたものの、後期は無理そうだったので阪大へ出願。

<センター後>

センターの結果を引きずり、完全に自信を喪失したまま二次対策を再開。センターリサーチはもはや完全無視で、私大対策もそこそこ、一橋の過去問を解きまくった。親の意向により浪人はでき

なかったので、私大は8つも受けた。2月からは連日入試だったせいか、逆にセンター前のような焦燥感はなかった。とはいえ上智の経営に落ちたときは目の前が真っ暗に・・・。

<二次試験当日>

国語では解答用紙を配られないというハプニングを乗り越え、結構な手応え。しかし、問題の数学で大失敗！2日目の試験を休もうかと迷うが、「英語と社会で満点取れば受かる！」と言い聞かせて2日目も試験会場へ。満点とは言わないまでも、英語と社会はまずまずの出来！とはいえ受かったとは夢にも思えずに、「この校舎も見納め。ありがとう一橋！」と思いながら帰路へ着いた。

<試験後～合格発表>

試験後、2月いっぱいはい休もうと思い、本を読んだりしてまったり過ごす。私大の結果発表が続々。

3月になって、阪大後期の赤本を探したが見つからず。これも運命と諦めて、ほぼ勉強はしなかった。毎日のように一橋を落ちる夢を見た。発表前日は、申し訳なくなってひたすら親に平謝り。

発表当日、チキンな私は掲示板発表を見に行かず、ネットで発表を見た。家で1人にもかかわらず思わず絶叫！その後手続のために大学へ行き、学校や塾の先生に報告。自分の合格を喜んでくれる人の顔を見たときには、本当に感慨深かった。

☆ 最後に

受験って本当に大変です。しかも私は文転をして、珍しい科目で受験だったせいもあって、かなり孤独でした。間接的に「無理じゃない？」と言われたことだってあります。でも、受かったとき、合格を報告するときの喜びは想像を絶するもので、そんなことは吹っ飛びます。受験は、最後の最後は気持ちだと思います。少し不利な状況にあっても、気持ちさえあれば乗り切れます！頑張れ！！

☆ 成績

○ 模試結果

代ゼミ一橋模試：B

駿台一橋模試：C

○ センター 計754

英語：190 リスニング：50 国語：169

数ⅠA：100 数ⅡB：71 物理：69 政経：82 地理：76

○ センターリサーチ

駿台：D 河合塾：C 代ゼミ：C

○ 併願校

立教大 経済 センター利用○ 全学部○

上智大 経済経営 一般×

経済経済 一般○

早稲田大 国際教養 センター併用○

政経 一般○

商 一般×

慶応大 経済 A方式○

法学部 女 私立中高一貫女子校 現役 前期

＜一橋合格への道のり＞

○ 春休み

高2の1月に受けた全統記述模試の結果が酷かったので、春休みから本格的に勉強しようと決意。家では勉強できない性格だったが、毎日塾の自習室に通う習慣を作ることに成功した。

○ 一学期前半

やる気はあり、月ごと、日ごとの計画を細かく立てた。しかし予想外に学校の数学の課題に時間がかかり、結局多くの時間をそれに割いていた。塾では英語、数学、日本史を取った。英語はテストゼミ形式だったので、毎週緊張感を持って臨めたことがすごく良かった。また日本史は、模試の1週間前から出題範囲を集中的に復習するようにした。

・この頃の模試の結果：第1回駿台全国判定模試→C、第1回全統マーク模試→D

・使っていた参考書や問題集：塾のテキスト、速読英単語必修編、英文読解の透視図、英頻、青チャートなど

○ 一学期後半

受験生としての生活にだいぶ慣れてきた。大好きなバラエティ番組を見ることも制限した。勉強は順調に進んでいるかと思いきや、得意科目の英語の長文が、模試で全然読めずに焦ったり、古文の点数が全国平均を下回るなどショックなことが続いた。しかし6月は天気の良いのか、気分が乗らずにだらけていた。

・この頃の模試の結果：第1回全統記述模試→D、第1回駿台全国模試→D

・使っていた参考書や問題集：1学期前半と同じ、マドンナ古典文法

○ 夏休み

細かく計画を立てて、実際にその日にやったことを書き出した。夏期講習は6つ取ったが8月初旬には全て終わったので、夏休み後半は全て自習の時間に充てることができた。日を追うごとに集中力もやる気も上がって、毎日朝から自習室に籠った。1学期の塾のテキストの復習や苦手科目・分野の克服を中心に勉強した。また、センター対策として、地学の問題集を一冊終わらせた。

・この頃の模試の結果：第2回全統マーク模試→C

・使っていた参考書や問題集：1学期と同じもの、数列が面白いほどわかる本、こだわって！微分積分、実力をつける日本史100題、マドンナ古文単語、現代文と格闘する、センター漢文問題集など

○ 2学期前半

夏休みが明けてすぐあった模試で、英語の長文の手ごたえが1学期とは全く違ったので、夏休みの勉強は成功したと有頂天になった。しかし、日本史は夏休みの予定通りに進まず、少しでも早く通史を終わらせようと焦っていた。学校の倫理の授業が最低だったので、9月から倫理を自分で勉強するようになった。

・この頃の模試の結果：第2回駿台全国判定模試→B、第2回駿台全国模試→C、第2回全統記述模試→C

一橋に行きたいという気持ちが大切です 判定は気にせず過去問対策をしっかりやってください

・使っていた参考書や問題集：塾のテキスト、速読英単語必修編、文系数学良問のプラチカ、日本史実況中継、実力をつける日本史100題、センター倫理が面白いほどわかる本など

○ 2学期後半

一橋プレ模試、オープン模試はどの科目もまともにできず、酷い点数だった。かなり不安になったが、「現役は最後まで伸びる」という言葉を信じて、模試の結果を無視し勉強した。

・この頃の模試の結果：第3回全統記述模試→B

・使っていた参考書や問題集：2学期前半と同じ

○ 冬休み～センター直前

12月前半はセンター対策と一橋対策を平行して勉強した。センタープレテストの結果が悪かったので、12月末からはほとんどセンター対策の勉強をした。放置していた日本史の近代の文化史を詰め込んだ。倫理と地学は問題を解きながら暗記していった。この頃は自習室が1番混む時期だったので、座席の確保が大変だった。

・使っていた参考書や問題集：センター過去問、マドンナ古文単語、セミナー地学、センター倫理への道

○ センター直後

センターは撃沈。数ⅡBは今までの最悪の点数だった。あまりにも悔しかったので、2日後に解き直した。自己採点直後は今までの人生で一番泣いて落ち込んだ。でも深く落ち込んだ分浮上も早く、次の日には予定通り一橋大学法学部に特攻することを決めた。親も学校の先生も塾のチューターさんも、私の決意に賛成してくれてすごく嬉しかった。法学部の倍率が昨年に比べ大幅に上がってかなり焦ったが、2次試験の受験票が届いて一安心。それからやる気と集中力も上がった。国語の要約、英語の自由英作文は学校の先生に添削してもらった。一橋の対策に集中していたせいなのか、私立受験は大失敗…。背水の陣で2次試験に臨んだ。

・使っていた問題集や参考書：赤本、一橋大学への○○、速読英単語上級編、得点奪取現代文、直前講習のテキストなど

○ 2次試験後

後期は一橋に出願していなかったのでやる気が出ず、全然勉強しなかった。毎日だらけていた。

○ 合格発表

3月10日はまさかの登校日。卒業式の練習中も、心ここにあらずという状態。14時頃、1人で掲示板を見に行った。番号を見つけて号泣しながら親や友達に連絡。とても嬉しかった。頑張ってた本当に良かったと思った。

<最後に>

第一志望に合格するために重要なことは、第一志望に入りたいと強く思い続けることと、自分を信じることだと思います。本番はいつもとは全く違う精神状態になります。その時信じられるのは自分だけです。そして、自分を信じるためには勉強するしかありません。第一志望に入りたいと強く思っていれば、自ずと行動がついてきますし、願いはきっと叶います。私は私立受験を大失敗しましたが、「今まで自分は一橋対策に集中したわけだし、絶対大丈夫だ!」と、自分を信じて2次試験を受けることができました。

また、受験を通して自分は常に誰かに支えられているということを実感しました。周りの人々へ

の感謝を忘れずに、日々過ごしてくださいね。

みなさん頑張ってください！心から応援しています！

<その他>

○ センター得点

英語：182 リス：44 数ⅠA：97 数ⅡB：56 国語：141 日本史：95 地学：
84 倫理：83

⇒合計738／900（82%）

○ センターリサーチ

河合塾→C、駿台→E、代ゼミ→C

○ 一橋模試

河合塾→D、代ゼミ→E

○ 併願校

- ・慶應大学 法学部 B方式→×
- 経済学部 B方式→×
- ・早稲田大学 法学部 一般→×
- ・中央大学 法学部 センター利用→×
- 一般→○
- ・立教大学 法学部 一般→○

Column：二次社会の選択記入

皆さんご存じの通り、二次社会の受験科目は5つの中から好きなものを1つ選択できます。ということは、試験時にどれを受験するかを明示しなければなりません。このために、私達にはしなければならないことが2つあります。1つ目は、受験番号記入欄の隣にある欄に選択科目の番号を記入することです。（選択科目の番号は、世界史なら1、日本史なら2などとあらかじめ決められています。）これは問題冊子の注意にわかりやすく説明があるので記入し忘れることはないでしょう。2つ目は、解答用紙の上の方に並べられた選択科目の番号のうち、自分の選んだ科目の番号に丸をつけることです。これが盲点なのです。解答用紙は裏を向けられたまま配られるうえ、このことは解答用紙の表に注意書きされているだけなので忘れやすい！！実際私もこれを忘れ、試験後に試験官に呼ばれ記入させられました。すべての試験が終わり開放感に浸っていただけに、あの時は本当に落ちたかと思いました。まあ実際私は現在一橋生になれているわけでそんなことで落とされることはないようですが、変な心配をすることにならないためにも皆さんは注意しましょう！

おまけ：センターのマークミスは取り返しがつかないので絶対に気を付けてください。（これも体験談です……笑）

社会学部 女 私立 現役 前期

＜高3・夏休みまで＞

受験勉強を始めるにあたって、学校に7時に登校・自習、授業を真面目に受ける、夜の8時まで自習室にこもる、というサイクルを作りました。また電車通学だったので、電車の中では英単語を見たり世界史の教科書を読む習慣づけをしました。高3の一年間の中で一番つらかったのがこの時期でした。長時間の勉強にもあまり慣れていなかったし、勉強の要領がまだ掴めていなかったからです。でもこの時期にがむしゃらに頑張ったからこそ、合格できたのだと思います。具体的には、得意科目の英語は単語をやりつつ、ポレポレ英文読解を使って構文をとる練習・苦手な数学は4-STEPで基礎強化・世界史はまだ通史ができていなかったの、学校でならった所を復習&学校の先生に添削を見てもらう&授業を真面目に聞く・国語は基礎的な記述問題をやり、記述のやり方を勉強しました。あと、理科の勉強は秋からでいいや、と思っている人！この時期から基礎固めをしておくといいですよ。私は1年と2年でサボりすぎたせいで化学がさっぱりわからず、教科書やその他のやさしめの参考書で勉強してとにかく基礎を固めました。

＜夏休み＞

夏休みはいっぱい勉強できるだろうなあ！と思っている人は多いと思います。実際のところ、そうでもありません！夏休み前に立てた計画は必ず崩れてしまいます！計画は最低限しなければならぬことを決めて、大雑把に作るのがオススメです。私は一学期の勉強スタイルを崩さないよう毎日同じ時間に登下校し、補習はたくさんとらずに自習に疲れた時の休憩時間のつもりで入れていました。センター対策としては、倫理や化学の暗記分野などの確認に力を入れ、英語や国語などには手をつけていませんでした。反省点は得意科目・化学に力を入れすぎ、一番勉強しなければならない数学がおろそかになったことです。夏休みは苦手科目の強化に使える期間です！得意科目を勉強するのは楽しいですが、ほどほどに！

＜秋～冬休み前＞

夏休みの反動か、勉強に対する意欲などは下降気味でしたが、勉強スタイルを崩さないよう気をつけていました。

秋には各予備校の一橋模試があり、私は駿台と代々木の模試を受験しました。この模試に向けて、秋から国語の要約問題に取り組み始め、先生に添削をお願いしました。（このときは青本を使用しました。）要約はコツがつかめれば点数の稼げる問題だし現代文の読解力もつくので、もっと早くから始めておけばよかったです。結果は、やはり夏休みに力を入れなかったせいか、数学に関しては駿台で8点（！）をとるなどのとんでもない成績でしたが、国語や世界史、英語にカバーされたおかげでE判定ではありませんでした。社会学部を受験する人は苦手科目が数学だけなら大丈夫な気がします。（笑）一橋を受験するライバルたちの中で自分がどの位置にいるのかを知ることができ、かなりモチベーションが上がりました！この時期の反省点は、模試が返却されてもすぐに復習をしなかったことです。さんざん言われていることですが復習は早めにしたほうがいいですよ。

＜冬休み～センター＞

学校に通いつものの勉強をすすめました。先生から「センターの苦手科目は毎日問題を解きなさい」といわれたので、苦手な古典と化学は必ず毎日解くように心がけました。また、倫理や世界史などの得意科目は3日に一回解く、といった感じであまり時間をかけていませんでした。二次対策として、このころから赤本・青本に本格的に取り組み始めました。得意科目の英語と国語と世界史は駿台の「一橋への～」シリーズを使いました。世界史の記述問題は負担が大きかったので、この時期はあまり力を入れていませんでした。数学はセンターの問題を中心に解き、二次対策としてはプラチカを使って（比較的得意分野な）微分積分・ベクトルを解きました。センター直前（一週間ぐらい）は二次対策をやめ、センター問題に集中しました。

＜センター後～前期＞

センターは思った以上の好成績。足きりの心配もなく、二次問題に打ち込みました。で、二次対策なんですけど・・・この時期とんでもないスランプが。センター後の気のぬけ方は異常！と聞いてはいましたが、これほどとは・・・。勉強しても頭に入っていない感じが続いていて、ボーっとする時間が増えていく。どうしようもなく無理矢理に英語・世界史・国語を解く！数学？微分積分・ベクトル以外はセンターレベル止まりです。確率と整数は毎年でる事は知っていましたが、私は本当にこの二つが苦手な基礎もあやういのに一橋の問題なんて・・・！という状況。社会学部は数学苦手な人が集まるさ☆と自分を納得させプラチカの復習に勤しむ。今年の二次試験には微分積分がでず試験中に泣きそうになりましたが、みなさんはそうならないように気をつけてください。この時期は精神力が勝負です。

＜前期～合格発表＞

ホテルの中ではひたすらリラックスすることに集中し、勉強は簡単な英文を読んだり、世界史の添削を見直したりするぐらいでした。当日の試験の中で一番緊張したのが数学でした。やはり、満足のいくまで勉強しなかった教科は自信もなく緊張してしまいます。前期が終わってからは、もう全く勉強しませんでした。合格する自身があったわけではなく、ただ単にやる気がでなかったからです。発表はパソコンで見たのですが、本当、受かってよかった。落ちてたら無勉で後期（他校）を受けるところでした。本当、よかった。

＜最後に＞

受験勉強を振り返ると、3年の前半に一番頑張っていたと思います。本当に後半は精神力勝負です。この試験が終わったら楽しいキャンパスライフが待っていると信じて頑張ってください！

成績

一橋模試 駿台C 代々木B

センターリサーチ 河合 A 駿台・代々木B

センター得点 倫理88 世界史87 国語185 英語196 リスニング46 数学Ⅰ82
数学Ⅱ78 化学95

商学部 男 公立 浪人 前期

【現役的一年間】私は現役のとき名古屋大学法学部を志望していました。一橋なんて夢のまた夢。私の限界は名大だと勝手に決め付けていました。モチベーションは低く、高校3年間を一度も予備校にお世話になることなく過ごしました。私の高校のトップ層にとって受験とはいかに勉強せずして難関大学に合格するかが問題でした。私もそういう意識で受験を臨みました。秋に入ると体育祭・文化祭に全力を注ぎ、恋に燃えて受験勉強なんて全くしなくなりました。文化祭が終わると第二回名大オープンが実施され、受けるとB判定という結果が返ってくると調子に乗って勉強をしなくなりました。1月に入りようやく重い腰を上げセンター対策をはじめたが時すでに遅し。結果は698/900でした。センターが終わってホッとして力を抜いた瞬間、肺が破れいわゆる自然気胸という病気を患い、1週間入院しました。入院が決定したことを気になっていた女の子に報告するとなぜか告白されて付き合うことになりました。こんな状況で二次の対策ができるはずもなく、前期前日まで彼女と遊びまくるというバカな行動をとり見事名大滑りました。

【現役時の反省】とにかく大学に対する意識が最低でした。今思えば受験から逃げようとしていたのではないかと思います。また法律に興味無くして法学部を志望していました。勉強せずして難関大学に合格する価値は全くないと気づき、努力の大切さを落ちてはじめて実感しました。

【浪人の決意】私は現役時ほとんど努力しませんでした。だから浪人を決意する際、自分が胸を張って一年間努力できたといえることを目標としました。また浪人するから志望校を上げるのは現実が見えてない子がすることだと思い名大を引き続き志望しました。親のすすめもあり河合塾千種校の名大EXコースで一年間がんばるのだと気合を入れました。

【3月～5月】春休み中は高校の友達や彼女と遊びまくりました。でも心の底から満喫できるはずもなく、よくわからない何かにとらわれながら遊びました。4月に入ってようやく落ち着いて勉強できる環境が整い、まず私は自分の将来について詮索することから始めました。なぜ大学に行くのか、将来どのような職業に就きたいのか。興味のある学問・職業に関する新書を読み漁り、熟考してたどり着いた結論が公認会計士でした。同時に商・経営に強い大学を調べて一橋大学商学部の詳細を知ることになりました。「まさか日本にある商学部の中で最も質が高いとは…」と本当の意味であこがれを抱き始めました。しかし志望校を上げる勇氣はなく順調に成績が伸びたらあわよくば…と思っていました。この時期には大学生っぽいことがしたいと思い、英検準一級の申し込みをしました。また名大の成績開示をしたら合格最低点に2点及ばなかったことを知り、国語の過去問一年分もやらなかったことを後悔しました。苦手科目から逃げたので国語は悲惨でした。

【6月～9月】河合塾の授業によりやく慣れ始め、予習復習はキッチリこなしました。6月に入るとKODA祭と英検の日程が重なることに気づき、友達に黄本の入手を託しました。一橋なんて届くはずもないのに…なんて思いながらもつつい黄本を読み耽る。一橋を少なからず意識していた私は名大に絞った対策ではなく、いつでも志望校をあげられるようにと総合的な学力を向上させよ

うとしました。7月に入ると英検の合格通知が届き、一次・二次試験ともにほぼ満点だったので英語に自信を持ちました。7月中旬には私に意識革命をもたらしたともいえる事件が起き、ようするに彼女と別れました。詳細については座談会の恋愛編を参照してください。話を戻しますが、現役のとき本当に国語が苦手だったので、夏休みに入ると得点奪取シリーズの古漢を一周しました。また一橋を受験する際二次で地歴が必要なので、黄本で紹介された「日本史論述明快抗議」を購入し、勉強の合間に読みました。数学は河合塾のテキストの予習復習が精一杯でほかの参考書には手をつけませんでした。英語に絶対的な自信を持っていた私は唯一の苦手分野である英文解釈だけを「英文読解の透視図」で対策しました。夏休みの途中に第一回名大オープンを受けて自分の力を試した結果、経済学部で10位ぐらいでした。現役時に天狗になって失敗したことを踏まえ、私は自分の学力に多少の自信を持ちながらも常に向上心に満ち溢れていました。

【10月～12月】一橋の傾向にあった問題に目を向けるようになりました。とりあえず「一橋への数学」を終わらせ、日本史は過去問5年分やり終えたところで一橋模試受けました。受け終わってある程度の手ごたえを感じた私はセンター対策に移りました。11月のはじめにセンター対策を始めるなんて一橋受験生からすればありえない話です。でも私はまだ名大も視野に入っていたのでこれは仕方がなかったのです。模試の結果は河合B駿台Cでした。河合でB判定が出せた瞬間私はイケると思いました。なぜなら得意の英語が偏差値50しかないにも関わらずB判定だからです。また模試の結果を深く自己分析した結果商学部合格できる糸口を発見しました。それはセンター・国語・日本史の得点力を上げること。なぜ英数ではなくセ国日なのか。あくまでも私の場合はですが、英語はまともに対策すれば7割以上、数学は波があるものの6割以上は確実に取れる自信がありました。これを前提条件として今後何をすればいいか考えました。センターは模試の時点では83%が精一杯で国語と日本史の得点率は40%前後でした。もしもセンターの得点率を90%まで引き上げて、日本史と国語の得点率を55%以上にすることができれば余裕で合格。また前期の最低点はおそらく600前後であるという情報を信じて逆算すると、数学は2完2半(=6割)あれば十分だということもこの時悟りました。11月の終わりに第二回名大オープンを受けたら結果は経済学部1位でした。センター対策にすでに入っているにも関わらず1位をとれたので、この瞬間名大から一橋に志望校を変える決意をしました。もう名大はお呼びでない。

【1月～2月】センター対策に2ヵ月半もかけた私はまわりの一橋志望者からかわれました。それでも自己分析ではじき出したことを信じました。しかし神は私に試練を与えたのです。それはセンター3日前に起きました。またしても肺が破れて、今回は手術しないとどうしようもないぐらい深刻な容体でした。「手術したらセンター集中できないよな…でも手術しないと肺が酸素確保できなくなって最悪死ぬって医者にいわれたし…」窮地に立たされた私は手術を選択しました。センター2日前に急いで本試の会場に別室受験の申請を行い、受理されたのであとは私の体調次第でした。センター前日はあまりの痛みに身動きとれませんでした。センター当日なんとか動ける程度に回復していました。会場に向かい、別室で一人孤独に受験しました。その結果なんと807/900。2ヵ月半も対策した成果はちゃんと出たのです。自己採点を病院でやって「計画通り」と

ニヤけました。しかしCT撮影の結果を医者から聞くと「いつ肺に穴があいてもおかしくないぐらい肺が弱っています。東京受験できる体力の保障はできません。」忘れていた名大の存在を再び思い出しました。名大なら2月勉強しなくても受かる。地元だから体に負担もかからない。出願〆切まで悩みました。いま思えばここで逃げずに一橋に出願したのが運命の分かれ目でした。2月中に国語と英語に関しては5年分、数学は15年分、日本史は20年分の過去問を演習しました。とにかく日本史に力を入れました。古い青本や赤本を入手して解説を読み漁り広く深く知識を蓄えました。大問2・3に焦点を当てて近現代中心に勉強しました。国語はどれだけがんばっても結局苦手のままでした。要約だけ得意だったのが救いでしたが、それ以上に秋まで名大志望だったため国語の記述の対策は私なりに万全でした。過去問5年分こなして6割はとれると思い見切りをつけ、あとは英語の傾向慣れだけです。「一橋への英語」で説明問題に慣れ、過去問でも的を射た解答が作れるようになりました。幸い肺は持ちこたえてくれ、本番に臨みました。やり終えて、英語は75%、数学は60%、日本史は80%、国語は60%という感触でした。あまりに計算通りにことが進むので自己分析を自画自賛しました。約700/1000はあるだろうと思った私は合格発表前に住む家を見つけて一人暮らしの準備をすすめ、発表当日は合格を確認しました。

【受験生にアドバイス】配点に騙されず、自分が合格するために何をすればいいのかという自己分析を積極的に行ってください。数学3完が合格の条件、センターは足切りさえ通れば二次勝負、なんていう固定観念にとらわれないようにしましょう。自分に当てはまるとは限りません。配点が高い科目はできて当たり前、配点の低い科目は軽視されがちなので対策をすれば差はつけられます。また自分が大学で何をしたいのかを明確にすることで高いモチベーションをキープできます。私は自分の将来像が見えてからは一度も勉強が嫌だと思わなくなりました。

【センター得点】807/900 英語：186 リスニング：48 国語：151 数ⅠA：100 数ⅡB：92 生物：87 日本史：94 現社：96
 【併願校】慶応法学部B方式、経済学部A方式・早稲田法学部：×
 慶応商学部A方式、早稲田商学部セ利、中央法学部セ利：○

Column：合格発表

合格発表…それは独特の雰囲気を持っています。私が通っていた高校は、合格発表の日が登校日でした。インターネットで合否発表を見た私立の結果が悪かったので、一橋は掲示板を直接見に行く事にしました。一橋へ向かう途中まで、友達がずっと励ましてくれました。国立駅で降り友達と別れ一人で大学通りを歩いている時、あまりにも緊張して泣きそうになりました。そして掲示板へ着いて深呼吸。少し落ち着いたところで自分の番号を探したところ…発見！！親や友達に連絡しながら号泣して、自分の番号の写メを撮りました。時刻は既に14時だったので周りにはほとんど人がいませんでしたが、一人で泣き叫んでいたのも、今思い出すと恥ずかしいです（笑）でも言葉では言い表せないほど嬉しかったです！受験での苦労は全て吹っ飛びました！掲示板は西キャンパスにあり、東キャンパスでは早速いろんなサークルが新歓を行っており、すごい盛り上がりになっていました！あなたも合格の喜びを経験してくださいね！

経済学部 男 私立中高一貫男子校 浪人 前期

●浪人に至るまで

センター対策の予定が11月頃からの履修不足問題の影響で大幅にずれ込み、センター直前まで暗記科目の詰め込みに終始。点数が取れていた英数国をこの間放置してしまったのが、今から考えると敗因。結局世界史や生物が自己最高点を取った一方、数学、国語で自己最低点を取って大失敗し、東大受験を断念。急遽一橋対策を始めた。私大対策を投げうって一橋対策にすべての力を注いだ1か月、やれることはすべてやり、試験の手ごたえはボーダー付近かなという感じ。発表をキャンパスまで見に行くとラクロス部の人と一緒に見るようになった。しかし番号は無く…ものすごい勢いで（元気な女性だったんです）励まされた。その後母校の進路指導室で志望校・予備校について相談し、駿台お茶の水スーパー一橋コースに行くことに決定。今度は1年間しっかり対策をして必ず一橋に合格しようと決心した。ちなみに前期試験が終わってからは気分転換のため勉強せずに遊びまくった。

●前期授業（4月～7月初め）

勉強自体は3月末くらいから再開したが、集中力を取り戻すには一苦労。通学片道1時間半の生活には疲労感がいっぱい。初めのうちは予復習のリズム作りに終始。土曜を休養日に設定し、日曜を予復習に当て、駿台のテキスト以外には手を出さなかった。5月にはもう夏期講習の計画を出さないといけなく、模試もまだの時期に多少疑問に感じながら、これを伸ばしたいと思ったテーマの講習だけ取った。現役時代1番の得意科目だった数学が判定模試で悲惨な結果。ちなみに判定はD判定。周りにはAやBがゴロゴロいて少し焦る。一橋の成績開示結果が返ってくると、二次の合格最低偏差値は55.0、僕の偏差値は53.2で、まあ惜しかったのかなと感じる。6月にはKODAIRA祭で黄本を貰うついでに（委員の人に勧められて）相談室で相談をした。相談にのってくれた方が、今年現役で法学部に入った女性。主なアドバイス内容は模試の成績で自分を過信しない、一橋英語は差のつく傍線訳・自由英作でしっかり取ろうということ。突然のことで相談内容を考えていなく、ちょっと愚痴気味に話してしまったのに、やさしく丁寧に話に乗ってくれた。それにかわいい人だった♪このとき、一橋に絶対合格して今度は自分が黄本を作り、相談される側になろうと決心。このことが一橋でなければならない理由になり浪人生活を支えてくれた。前期授業が終了に近づいても相変わらず数学が調子悪い。予習をしていても現役時には普通に解いていた事ができなくなっていて…それでも全国模試で一橋経済B判定。ただ中身を見ると現役時より数・国の偏差値が落ちていて反省点がいっぱい。そんな調子であつという間に前期授業が終了。2月までもあつという間なのだろうと不安に感じた。

●夏期休暇（7・8月）

自習室に行くのは面倒だし並ぶのが嫌いだからずっと自宅学習。勉強内容としては、英語：読解・構文・英文法のテキストの復習、長文系講習を1つ、文法系講習を1つ。復習に飽きてからは「英文読解の透視図」を購入しやり始め夏の終わりには1週終了。現役の受験期に速読ばかりになって読み方が荒くなっていたように感じたため、英語長文を読むときは精読が主。ただその代わり若干速読力が落ちているかなとも感じが、これは秋から直せばよいだろう。

数学:前期中使用したテキストの復習のみ。とにかく繰り返した。手を広げるよりも穴を無くそう。

国語:一橋大国語、現代文の講習、「現代文と格闘する」で文章の読み方を確認。

世界史:講習は一橋大世界史。荒巻シリーズを読んで通史イメージを入れ直す。

全教科過去問はやらなかった。とにかく前期中にやったことの復習に終始。浪人は手を広げるよりやってきたことの穴を埋めることが大事でしょ!一橋志望になってから古典の勉強が手薄になっているのは仕方ないのかな…夏を通して午前中寝てしまうことが多かった。計画の半分も達成できれば上出来だというけれど、確かにそんな状態になってしまった。駿台のクラス担任に言われた、やるべきことに優先順位をつけて上からつぶすというのは役立った。

●後期授業(9月~12月)

後期になって授業レベルが発展になり予復習がキツくなる。その上、模試ラッシュが始まり、睡眠不足の日がかなり増える。予習を断念し寝てしまう日もあり、仕方なく予習・復習をやる授業を決めてそれ以外は断念。冬期講習、直前講習の日程を考える時期がやってくると、前回センターで大失敗しているだけにセンター系の講座は最後まで迷ったが、結局一橋を冠にしている講座を選ぶのみにした。後期に入ってから世界史論述対策をはじめたが、論述に関しては現役時代からよくやっていたため、基本事項に漏れの無いよう勉強することを優先させた。第2回判定模試の結果が一橋C判定で数学があまりよくなかった一方、苦手かつ嫌いな国語はなぜか冊子に名前が載った。もう自分がよくわからん。10月も半ばを過ぎると、睡眠不足(4時間前後)が続き午後の授業がきつくなる。なかなか一橋対策に手がまわらなく焦ったまま一橋実戦模試に突入。現役時はセンター後に受験校を一橋に変更した経緯もあって、実戦形式での試験は一橋前期試験が初めてで、今回の模試が2回目。今回の最大の目的は「時間配分」を肌で感じる事。やはり時間配分というのは頭で考えていても、実際にやってみないと分からないものなので、今回はできることを残さない時間配分を意識した。第2回全国模試では一橋A判定。生まれてはじめてのA判定に歓喜。今回の結果は表面上良いのだが、設問別成績を見ていくとハッキリと弱点が見えてくる。判定だけでなくデータの分析も大事だよ。11月下旬にはセンター英語の新傾向対策を始めるがどうしても1-Cと広告問題が苦手。一橋実戦模試が返却されA判定。でも国語が悲惨な結果。経済学部だったから被害は最小限か…そんなこんなで後期授業も終了。予習・復習に追われるままに進んできたがどうだったのだろうと多少不安に駆られる。

●センター直前期(12月~1月)

本格的にセンター試験対策に入る。目標は「リードしなくていい、ビハインドさえしなければ」ただ、過去問を現役の時やりすぎて今年やる分が残っていない。

センター対策としては

英語:センター試験必勝マニュアル発音文法(東京出版) 授業テキスト復習

数学:センター試験必勝マニュアル(東京出版)

国語:過去問 授業テキスト復習

世界史:過去問 青木の実況中継

政経:授業テキスト復習 過去問

生物:センター試験必勝トレーニング(東京出版)

あとは市販のセンターパック（駿台、河合、Z会）センター1日目。前夜は良く眠れた。会場は県立高校。なかなか門を開けてくれず、自分を含めた多くの受験生が外に放置。机は穴が開いているし、ガタガタ。酷いもんだ。手ごたえは微妙。リスニングの早さにはビックリ。センター2日目。数学ⅠAで問題が解けないという緊急事態に思わず受験を諦めそうになったが、数ⅡBで挽回すれば大丈夫だし2次で絶対逆転できるから、と思い直した。昼休みはとにかく気持ちの切り替えに終始し、数学ⅡBを無難に終えた。結果、平均82.9%と、実は自己ベスト。（ただし個別ベストはひとつも無し）

●一橋直前期（2月）

最後まで苦手を克服できなかったセンター試験。二度と受けまいと心に誓って一橋対策へ。センターリサーチはD判定。2次で逆転できる自信があったから迷わず出願。とにかく一橋対策を続ける。リスニングは毎日欠かさず。

英語：過去問、英作文のトレーニング自由英作文編（Z会）

数学：授業テキストの復習、講習の復習

国語：講習の復習（主に要約）

世界史：過去問研究 他大の論述問題で今年一橋で出そうなものをする

直前講習は一橋系を全部受講。私大対策はほとんど出来なかった。今考えるとナメすぎ。去年早稲田政経が6点差で落ちていたので今年はいけるだろうと高をくくっていた。慶應経済、早稲田政経、商と受験。すべて数学で失敗…現役の時は数学に助けられてきたんだけどなど不安が募る。そして遂に一橋本番へ。前日、一橋へ下見。兼松講堂のマーキュリーに向かって手を伸ばし合格を誓う。ホテルでは数学の授業テキストのチェック。あとはテレビを見ていた。1日目国語、数学を終え、手ごたえを感じながらホテルに戻る。帰りにジャンプを買って読んだり、テレビを見たりでリラックス。2日目まず英語。読めた、書けた、聞けたという実感。昼休みに合格への自信を覗かせる。世界史で予想していた日韓併合が出て思わずガッツポーズ。試験終了後、すべての科目で去年より取れている実感を持ち、合格を確信。

●受験生活の終わり

翌日から私大発表3連続。1つくらい受かっていてくれと願っていたが全滅し自信が揺らいでいく。後期横国対策にやる気がわからず、部屋の大幅模様替えを始める。そして運命の日。あいにくの雨模様だが支度を整え一橋へ。国立へ着くと段々と雨も上がり、合格発表掲示板へ。そして…自分の番号がそこにはあった。凄く嬉しくて、ものすごい安堵感に満ちて。合格を報告に行ったときのみんなの笑顔が嬉しくて。ああ浪人して良かった、そう心から思えた。

●受験データ

センター得点

政経79 世B85 国語163（97+66） 英語174 リス40 生物87 数ⅠA76

数ⅡB85 合計746／900圧縮

併願校

合格：明治政経センター 青山学院経済センター 中央経済センター

不合格：慶應義塾経済A方式 早稲田政経数学 早稲田商数学 立教経済センター

法学部 男 公立 浪人 前期

<2007年二月二十六日（一橋大学前期試験二日目）>

最後の世界史が終わり、どの科目も何一つ出来なかったことに絶望しながら電車で帰宅。現役時、自分は得意科目の英語ばかりやっていて、冬ぐらいいまで他の科目をあまり勉強していなかった。そのせいで冬以降他教科の勉強ばかりやる羽目になり、今度は逆に得意だったはずの英語が出来なくなる、という事態におちいていた。そんな自分だったから、一橋との力の差が歴然であるのは当然だった。

<三月>

不合格を固く信じていたので、まだどの浪人候補者も本格的に勉強し出していない春休みに出来るだけライバルとの差を縮めてしまおうという卑怯なことを考え、遊びの誘いを全て断り、（今思うと少し寂しいですが）本気で浪人の勉強を開始する。まずは何故現役のときに落ちたのかについて考え、一橋の過去問を研究し、一橋がどういう力を求めているか教科ごとに分析し、自分に欠けているものを一年でいつ、どうやって、身につけるか計画をたてた。（例えばどの教科にも言えることだが、論理力は不可欠。自分は現代文、英長文、世界史の教科書の中でその論理展開や因果関係を完全に理解するようにすること、また数学を感性でなく理詰めで解くようにして論理力を培おうとした。）今思うとこれはかなり有益だった。

<十日>

不合格を確信しながらも、何故か大学に合格発表を見に行く。案の定自分の番号は無かったので、他人の胴上げを目に焼き付け、来年の糧にしようと思う。そして、春期講習前でまだ誰もいない予備校にて一人で十二時間全力で勉強する。

自分は地方予備校で不安だったのと、記述力強化のためにZ会を始めることにする。

<四月・五月>

四月になって予備校の授業が始まる。やはり地方予備校なので、教科によっては授業がイマイチだった。予備校のテキストの予習・復習をそれなりにやり、Z会に全力を注いだ。特に添削問題は納得いくまで一日中考え続けたこともあった。（数学や英語の長文や現代文などは時間をかけてじっくり考えることが本当に大切です。）この頃は基礎事項の確認をして自分の学力の穴を埋めようとした。センター科目は完全無視した・・・しかし後で後悔することに・・・二次試験が終わったとき、余力が全くない状態にしたかったので一日十六時間勉強という人間の限界に挑戦してみる。授業の合間の休み時間も何故か勉強、ご飯を食べつつ何故か勉強、行き帰りの電車の中でも何故か勉強を行う。ほとんど病気だ・・・

<六月>

黄本の入手と、モチベーションupのためコダ祭に行く。黄本の質の高さに感動（さすが赤本ののっているだけのことはある！）、現役で受かった友人と会い相談に乗ってもらう。後、アカペラきいて浪人で荒んでしまった心を癒してもらう。（浪人生にとって梅雨の時期は疲れが出始める頃です。なので、この時期は上手く気分転換しながら頑張ってください。）第一回の記述模試が返ってくる。春に頑張っただけあって現役の時から既に偏差値が十五伸びた。生まれて初めて一橋の

合格判定でE以外のアルファベットを見た。アルファベットってEだけじゃなかったのか……。そして自分の勉強方法に確信を持ちつつ、この調子で頑張ろうと奮起する。

<七月・八月>

予備校生活に飽き飽きしてきたので、図書館や家で勉強しようと思う。勉強場所を変えて気分転換を図るのは結構有益だ。また、やはり地方で不安だったので東京のZ会マスターコースにいった一橋対策講座をとる。東京のレベルの高さに驚愕、ライバル達の姿を目の当たりにして、絶対負けてたまるか、と決意。地方予備校の人や予備校に行っていない人でも、一度、都会で夏季講習を受けろべき。色々刺激を得られます。

<九月>

地元予備校の後期の授業が始まるが、夏休みと違い自分の勉強の時間が十分に取れないことに苛立ちを覚え始める。あと予備校の雰囲気にも物足りないものを覚え苛立ちがつのる。

<十月>

予備校に行かずに、家や図書館で勝手に勉強することを決意。宅浪スタート。(宅浪は一人で勉強しているので勉強のバランスが悪くなりがちです。だからキチンと自分で計画的に学習を進めてください。)

<十一月>

一橋模試を受ける。一位をとってやるなどと意気込んでいたが、数学でミスをしまくってしまい、実際の出来の感じとしては良くない。多少めげたがこのまま終わってたまるか、と再奮起する。宅浪は自由に勉強できるが、人との会話がなくなり精神的にシビアであることに気づく。たまに予備校にいった正気を保とうとする。

<十二月>

一橋模試が返ってきた。現役時のトラウマから、E判定だと思って結果を見たが、意外にも法学部で十六位だった。しかも現役時の駿台実践模試の偏差値が32だったのに、なんと偏差値が39上がっていた。一年間で39も偏差値を上げることができたことに大満足。たぶんZ会のおかげだと思い、Z会に感謝する。残りの数か月であと十五人抜くことを決意するなど調子に乗る。だが、意外とこのように常に向上心を持つことはとても大切だ。中旬からセンター対策を始める。自分は愚かにもこの時期まで文字通りセンター対策を全く行っておらず、慌てて生物や現代社会の教科書を読みまくる。しかし準備不足はやはり否めず、センタープレで630点というどうしようもない点数をとってしまう。(センター科目は前から少しずつ勉強していたほうがいいです。そうすれば一月くらいまで二次対策を継続し続ける余裕が生まれます)ここまできて足切りなんかで終わってたまるか、とZ会や大手予備校で売っているセンター用の問題集を買いあさり問題を解きまくる。所属していた予備校は信用していなかったので冬季講習、直前講習は一つも取らなかった。

<一月>

毎日が時間との戦いだった。ここまできたら気持の勝負だと思い頑張る。しかし、浪人前半から飛ばしすぎてしまったのと、後がないプレッシャー、風邪をひいたからか体がいうことをきかず全く勉強出来ない日もあった。

<センター>

東京の予備校にいった友達と試験会場で遭遇したりしながら、無事終了。去年のセンターの結果から100点以上も上がったことに感動を覚える。自分の努力は間違ってたんだ・・・

<センター後>

センターが苦手な割には健闘したのでこの調子で二次・私大全勝してやると意気込む。一月は十三時間くらい全力で勉強できたが、二月に入ると、やはり過労、体力不足とプレッシャーからか全く勉強出来ない日がでてきた。ここにきて序盤から飛ばしすぎたことを後悔する。(といっても、ここまでのレベルにまでこれたのは紛れもなく春から全力で飛ばしたからではあるが。要は、少しずつ運動して体力を維持しておくべきだったということ。これ大事)一橋にしか興味を持てなかったので私大の対策は完全無視。

<前期試験>

初日の出来は国語まあまあ、数学一完一半とあまりよくなかったが、二日目の英語、世界史は得意科目だったのもあり大成功したので、ひとまず安心し、現役のときの自分との差をひしひしと感じる。やっと終わったんだという解放感にひたりつつ帰宅。

<前期試験後>

一応後期試験のために、小論文用の参考書を買うが、全くやる気がでず、一日一時間ぐらいしか勉強しなかった。

<合格発表当日>

去年も現地に見に行ったので今年も見に行くことにした。万一落ちていたらどうしようなどと不安に思いつつも掲示板をみる。番号が、あった。嬉しくてたまらず三回くらい見直す。しかし自分の番号は消えない・・・遂に受かったんだ。浪人してよかった・・・

<受験生へ>

まず現役生へ、現役のうちは浪人しようなどとは絶対に考えないでください。現役時から浪人するつもりでいると、現役時に焦りが生じず、結果、現役の時にあまり成長できずに終わってしまい、浪人してから大変な目にあいます。

浪人生へ、浪人したら偏差値が上がって第一志望の大学に受かるだろうなどと考えているならば、それは甘いです。浪人して努力した者だけが受かることが出来ます。私は今年の入試に自分の人生を賭けていました。それぐらいの気迫で頑張ってみてください。大学受験は確かに辛いです。しかし、それだけの価値はあります。予備校の先生が言っていたのですが、大学入試は人生において、自分の実力が正当に評価される最後の機会らしいです。社会に出てからは学歴などの色眼鏡を通して個人が評価されてしまうことが多々あるそうです。ですからこの一年間に自分の人生を賭けてみてください。あと、ただ我武者羅に努力するだけでは駄目です。無駄な努力ほど無駄なものはありません。きちんと自分の実力を客観的に分析して適切な努力をしてください。そうすればきっと努力は報われるはずです。一橋に入りたい、という強い意志を持ち頑張ってください。

受験データ

一橋模試：駿台A 河合B 代ゼミC

併願校

落ちたところ

早稲田大学法学部センター利用・単独、併願、一般

早稲田大学商学部センター利用

慶應義塾大学法学部政治A方式

受かったところ

早稲田大学商学部一般

中央大学法学部法律学科センター利用入試フレックスBコース

立教大学法学部センター利用3教科

明治大学センター利用

センター得点

合計794/900

国語176 数ⅠA92 数ⅡB69 英語187 筆記184 リスニング50 世界史97
現代社会98 生物75

Column：足切り

「足切り」。いわゆる第1次段階選抜不合格のことですが、足切りされると本当に悲しいです。筆者は現役時にセンターで大失敗して、ギリギリセーフかなと思いついたものの足きられました。それもそのはず、ただでさえ点数が低かったのにマークミスまでしていたのです。これは成績開示でわかったのですが、漢文の点数が自己採点よりも30点近く低く、他の科目もちょっとずつミスしていて、予想総合点よりも40点近く低かったのです。ここで私が何よりも強調したいのは、マークミスをなくす、自己採点の精度を上げる、ということです。ダブルマークしたら、その問題以降すべて答えがずれてしまいます。緊張するセンター試験をミスなく終えるためにはマーク模試で練習するしかありません。マーク模試は1日つぶれるし、体力的にもだるいと思いますが、私のように本番で失敗することに比べたら何てことないでしょう。模試が終わった後は必ず自己採点してください。答えをもらったらずぐにした方がいいとおもいます。後回しにすると結局やらなくなっちゃうので。最終的にセンターの1点が合否を分けることもありますから、配点が低いからといってセンターをナメないで、きちんと対策しましょうね！！

社会学部 女 私立中高一貫女子校 浪人 前期

《進路決定…不合格体験記》

高1の頃から一橋大学社会学部に行く決めていた私は、高3秋の河合の一橋オープン模試でB判定をとった。D判定だった友達に「絶対受かるじゃん」と言われ調子に乗った私は、勉強を全然しなくなった。センターの結果は78パーセントで、足きりを心配しつつも前期・後期ともに一橋に出願しどうにか前期だけ受けられることに。直前期…私の過ごし方は最悪だった。まず、自由英作、国語要約などに取り組むのが億劫で、ぶっつけ本番で何とかなると考え放置。数学も苦手だしどうせ解けないからと放置。そして、私大…全くといっていいほど対策しなかった。「一橋を目指していれば早慶には受かる」と考え、私大全般をナメくさっていたのだ。対策0でも受けたMARCH全てに合格した私は早慶にも無対策で挑んだが、撃沈…（早稲田文構が補欠だったが、回ってこなかった）。そうして迎えた一橋の二次試験。十分な対策もできていない私は案の定、時間配分が上手いかず、英語の試験終了後「しまった…」とはっきり思った。得意な世界史や苦手なりに奮闘した数学は出来たと思ったが、結果は不合格。おごり高ぶって最後まで努力しきることができなかった自分が恥ずかしくて情けなくて、大泣きした。D判定だった友達はその後努力して合格した…当然の結果だ。親は泣く私を見て、浪人は無しだったはずなのにしても良いと言ってくれた。このままじゃ終われないという気持ちと、もう頑張れない、また私はどこかで怠けてしまうに違いないという気持ちの間で私は悩んだが、どうしても浪人を決意する勇気がなく最終的に中央大学総合政策学部政策科学科に進学することに決定した。

《再受験決意…合格体験記》

大学ではすぐに友達もでき思った以上に楽しい生活が待っていたが、モヤモヤがずっと消えなかった。私はあきらめてしまった、やりきることのできない人間なんだという思いが常に頭の中にあり、心から楽しめていない自分がいた。私はまだ大学生になれていない、受験生のときのままだ…。そんな中4月末に、D判定から合格した友達に受験後初めて会うことにした。一橋での生活について話を聞き、自分のモヤモヤした気持ちも聞いてもらった。友達は「一橋においでよ。〇〇〇（私の名前）なら受かるよ」と言ってくれた。一橋に行きたい。そしてそれ以上に何より、自分の本気を見てみたい。やりきれる自分でありたい。私は再受験を決意した。GW前までで大学に行くのはやめ、GW明けから河合塾駒場校に入塾（浪人するなら優秀な人が揃う河合塾駒場校か駿台御茶ノ水校と決めており、一橋には河合の方が100人以上多く受かっていたので河合にした）。1ヶ月遅れての受験生生活がスタートした。

◎前期

前期は基礎シリーズのテキストを使い、基礎力をつける。浪人生としての生活は1ヶ月ダメ大学生をやっていた私には想像以上に辛く、全然勉強に集中出来ない。自習室で勉強するなんて考えはなく予復習はしない、授業が終われば即帰宅、土日は家でぐうたらという生活がしばらく続いた。それでも模試はそれなりに良く、私が在籍していた一橋クラスで上から1/3以内にはいた。でも実際にこのクラスから一橋に受かるのはほんのわずかで、油断は出来ない。遅れて入ったので友達がなかなか出来ず、諦めて友達なんていない方が勉強に集中できると強がっていたが、現役時の塾

が同じ人や小学校の同級生などに再会しそこから徐々に友達の輪が広がる。友達は絶対にいた方が
良いと思う。でも選んだ方が良い。私は真面目でやる気のある友達に恵まれたおかげで、影響され
て6月後半には毎日授業後も最後まで自習室に残るようになり、土日も自習室まで足を運ぶようにな
っていた。とりあえず授業の予復習に努める。7月初めに一橋大チャレンジテストなるものがあり
(一橋模試が秋にしかないのではという河合塾の配慮。英数の2科目だけだったけど)、なんと数
学で0点をとった。笑うしかなかったが実際かなりショックで、夏休みは数学を頑張ろうと決意。

◎夏休み

とりあえず毎日自習室に通うこと、自習室が閉まる21時半までは帰らないことを決める。夏
期講習は取りすぎても自分の勉強時間が奪われるだけなので一橋対策のものと、あとは早稲田大学
政治経済学部AO入試対策のものを受講。実は私の浪人生活の裏テーマは“賢く受験をする”だっ
た。もしAOに合格すれば年内に一つ大学が決まる上に、私大最高峰と言われる早稲田政経を滑り
止めに出来る！夏休みの勉強自体は、前期テキストの復習に力を入れた。特に数学は、どの問題も
理解出来るようになろうと時間をかけた。

◎後期(9月～11月)

完成シリーズ始まる。テキスト名も「一橋～」のものが増えやる気が増す。が、数学に時間をか
けすぎていたわりに伸びず、その分放置していた英語と世界史の成績がどんどん下がっていること
に気づき焦る。そんな中AO出願の準備も始め、活動報告書(自分が高校でどんな活動をしていたか、
またそれを大学でどう活かしたいか)の作成にけっこう時間をさくはめに。9月末に出願し、10
月末の論文試験(英語問題と日本語問題)に備え添削を受けつつ過去問を解く。平行してテキスト
復習と11月初めの一橋オープンのためにピーナッツ英単語銅メダルと銀メダル、古文単語、漢字
練習、国語要約などもやる。十分な対策も出来ず受けた一橋オープン直後、落ちたと思っていた論
文試験に通る。2週間もしないうちに面接試験がありかなり焦る。色んな人に面接の練習相手にな
ってもらいつつ活動報告書に書いた内容に合わせて地方自治・地方財政に関する新書を3冊ほど、
自習室で皆が一般の勉強してる中必死に読みポストイット入れたり、志望理由や様々な質問を想定
し対策。面接本番はかなり楽しく乗り切る。11月末、早稲田大学政治経済学部政治学科合格。今
思うとかなりの賭けだった…。

◎直前期&二次試験(12月～2月)

12月初め返ってきた一橋オープンがC判定。まさか現役のときより下がるなんて…ショック
を受けるが、AOがあったからと自分を慰める。しかも全体の成績としては上がっていてバランス
が良くなっていた。とりあえずは英語と世界史の二次対策もしつつセンター対策を頑張ろう、次は
絶対に後期試験までいくぞ！センターに関しては最後まで地学に悩まされる…社会学志望としては何
としても90点以上とりたいところだが8割前後しかとれない…とにかく地学やりまくる。過去問
やマーク模試の過去問、センターパックなどを使う。センターの結果は約86%。去年より上がつ
たが、一番力を注いだ地学が80点で本当に落ち込み、家で号泣…出願を経済に変えることも考え
たが、思い入れ的にも二次の配点的にも社会学が良かったので社会学に出願。この先二次試験まで、私
は他の人より時間も余裕もある。大事なことは去年のようにここで気を抜かない事。過去問と駿台の
「一橋大への～」シリーズを使い、自由英作も国語要約も毎日のようにやった。リスニングもZ会

の問題集を毎日続けた。世界史は講師がくれたプリントで詳細な知識を取り込んだ後論述問題に移り（論述を書く時間を惜しみ箇条書きにとどめた）、数学は無理をせずテキストや細野シリーズ（整数と確率）をやった。単調な毎日にメリハリをつけるべく慶應法を受験してみるも落ちて、落ち込んだが良い刺激となりとにかく二次対策を毎日繰り返す。ピーナッツ英単語金メダル（本当に一橋レベルの語彙にピッタリだった）、漢字練習も毎日続ける。そうして迎えた二次試験。一日目…国語、数学。国語は計画通り大問二→三→一の順で。今年の大問二は古文だったがわりと簡単。要約も練習通り30分でなかなかの満足度に仕上がる。数学はやたら簡単だったベクトルの1完だけだったが、確率で結構食いつがったつもりだしまあ社学だし明日頑張ろうと切り替える。二日目…英語、世界史。緊張していた英語はとても冷静に時間配分も完璧に解くことができ、にこやかに試験を終える。そして世界史。大問三の二問目が河合の一橋オープンと全く同じ、大問一と大問三の一問目も河合の直前講習で言われていた範囲だったためもうウハウハ。河合で良かったと思った瞬間だった。こうして二日目は満足感をもって終了した。

◎試験後&合格発表

何とか後期試験の受験票も来たため毎日塾には来ていたが、圧倒的な前期試験のやりきった感のせいか全然もう勉強に集中できず、合格発表までそわそわしながら過ごした。実際前期で落ちていたら後期試験が12、13日、早稲田政経AO合格者に課されるレポート締切が13日なため大ピンチなのだがどちらも手につかなかった。勉強以外にも、去年合格した例の友達がしたことは全てやった。ロッキーのテーマをiPodに入れ試験前に聴き、試験後にはボート部にもらった合格祈願5円玉をキャンパス内に埋めてから帰り、谷保天満宮にお参りもした…。そして迎えた合格発表日。去年大学まで見に行っていたトラウマになったので家のパソコンから見る。…結果、合格。思わず叫びながら涙を流した。その後実際に一橋まで見に行き番号を確認した。あった。私の背中を押してくれた例の友達が私を発見し走ってきて泣きながら抱きしめてくれたのが、一番嬉しかった。友達が仲間を集めて胴上げをしてくれた。

◎最後に

やっぱり試験直後の直感って正しいんだなあ。あと、2月にどれだけ一橋の対策に集中して打ち込めるかが合格を決める上で本当に重要だと思う。波乱の多い一年だったが、とても充実していた。あのとき勇気を出して本当に良かった。回り道したかも知れないが、どの選択も間違っていなかったと思う。中央大学で受けた授業がAOの論文試験に繋がったりもした。そして浪人して自分と向き合い掘り下げることができた。もちろん全員が合格することはできない。だから、努力は報われるだとか諦めなければ夢は叶うだとか簡単に言いたくないけど、それでも諦めずに努力することしか道が開ける方法はない。そういうことを教わった一年だった。

《センター得点》

英語：186 リスニング：46 国語：159 数ⅠA：86 数ⅡB：73

世界史：94 倫理：91 地学：80

合計 815/950 (768.6/900)

当日ドキュメント

《前期試験では・・・》

【1日目】

とうとう一橋。それなりに安眠はできたが、いざ当日になると尋常じゃない程緊張する。他の私大一般は全然平気だったのに、やっぱ違うわ第一志望。片道2時間半かけて自宅から国立へ出発。電車では数学のノートを見直し、ガウス記号が出ないことを祈る。国立駅に着くと、人だらけ！受験当日の大学最寄り駅は基本カオス。大学通りは在学生の人たちが花道を作って受験生を応援してくれており、5円玉やチョコを配布していた。たまたま目が合った先輩からは両手を握られる。ぶっちゃけこれ、本当に嬉しかった。優しい先輩達を見てさらに一橋への思いが増す。絶対受かってやる！ガウス？瞬殺してやる★本館前で開場を待ってる間は、ライバルである受験生ではなく憧れの兼松を見つめてみる。これ、本当綺麗すぎる！（通ってる現在でも毎日そう思う）

《国語》

一番対策を怠った国語開始。いつも通り大問二スタート。今年は近世からの出題。特に悩むことなく、ボキャブラリーも冴えてまあまあな答案ができる。はい次～大問三。例年通りの要旨問題、こちらもいつも通り下書き用紙を裏返して、白紙に論旨の流れの図を書く。部分点をかささうために時間をかけて丁寧に答案を完成させる。順調！そしていよいよ大問一、現代文。若干怯えていた漢字も10問全クリ！オープンでは5問だったのに（笑）15分前位に終了し答案を見直す。しばらくすると遠くで卑猥な鐘の音が聞こえ、無事終了。ご飯ご飯ー！昼休みは周りの会話を聞きたくないで音楽を聴くのがマイウェイ。そして商学部のあたしにとって勝負の数学が近づいてくる・・・

《数学》

国語の雰囲気から一転、みんな気合がみなぎってる。空気が違う。数学、ガチで取りにいくぞ！！スタートと同時に問題を一通り見る。よかったガウスないわ（笑）とりあえず簡単そうなベクトルを終わらせ整数問題へ。解法もどうにか浮かび、無事答えを出す♪・・・しかし！！「kを全て求めよ」って書いてあるのに答えが1つしかでない！！ぎゃー！「全て」なんだから絶対2つ以上だよなんでよどこが違うのー！焦る気持ちをおさえ他の問題もちよいちよい手を出す。しかしどれも満足いく答えがでない。周り凄い勢いで書いてるよどうしよう。終盤にもう一度整数問題を見直すけどやはり答えは1つしか出ず、もんもんとしたまま運命の数学終了。あたし、おわった。周りを見回すと、11 t hの黄本で数学完答数を確認している受験生を発見。あ、それあたしも見たい・・・今、見たい・・・

《夜》

数学のもんもん感があたしを付きまとうも、今日は母とホテルに泊まるので立川に移動。夕飯中ももんもん感消えず。ヤッターマンを見ても消えず。とりあえず1完はしたという気持ちになるため、ベクトルだけホテルの部屋で再び解いてみる。今思うとさっさと世界史か英語やれよって思

うけど……。しかしここでもんもん感は絶望感へと変貌する。そう、簡単なベクトルを計算ミスしていたのだ!!!つまり、商学部志望でありながら、0完。1時間位落ちこんだ後、長文を1つ読み論述の頻出分野を再確認して11時頃ベットに入る。しかし翌日が手ごたえが皆無だった私立第一志望の発表ということもあいまって、デフレスパイラルにおちいりなかなか寝付けず。結局2時前に就寝。

《朝》

起床と同時に0完の現実を思い出す。でも今日の夜には長かった受験生活が一応終わってるんだ!!!と思うことでどうにかモチベを維持。しかし立川で特快に乗ってしまうという凡ミスをし、国立をゴーストと通過してしまう。(国立は快速しか止まらないから注意!)あれは素で焦った。大学通りでは先輩が「リスニングにビビるな!!!」と叫んでいた。リスニングに見事にビビっていたあたしはこの言葉に勇気づけられる。

《英語》

第一問の長文から始める。一橋の英語は国語的表現力が必要だが、今日はその表現力が冴えてる気がする!!!いい感じに論述問題も完成、英作文へ。テーマは「The power of words」を選択し、自分の思い出を書く。と、ここでリスニングの時間が近づく。問題を見てみると……。B、要約問題ではないですか!これ、1回過去問で見たけど無視した形式だよ……。と後悔にさいなまれつつリスニング開始。しかし、案外聞き取れ要約もそれなりに完成。やった♪その後は英作文の誤字脱字、時制チェックをやって第二問の長文をやり、5分位余裕を持って終了。手ごたえを感じ、少し希望を抱き始める。と同時に私立の合格発表がもう始まっていることに気付く。「気になる……。いいや確認しちゃえ!」と何とも勇者なあたしは携帯で合否確認。大冒険すぎる行動。ちなみに結果は合格だったが、落ちてたらその後の世界史どうなってたんだろ(笑)まあ結果オーライで!

《世界史》

とうとう最後だ、2時間後には解放される!受験勉強の努力を答案に全部出し切ってくるぞ!!そして世界史スタート、3つの問題を恐る恐る確認……。あれ?この問題?なんと私が取った予備校の講習テキストが的中しているではないか!しかも奇問がない!とりあえずほっとする。何回も確認した第三問の韓国併合までの流れは完璧に記す。問2は昨日確認した分野だ♪やはり最後まで粘ってみるものだなーと実感。そして第一問の400字論述に突入。図を下書きして本書、この問題も上出来!!そして第二問……。いや、そんな米西戦争について書くことないんだが……。若干動揺するも、「聞かれていないことには答えない」スタイルは徹底的に維持する。最後に答案をチェックし、鐘の音が鳴り響く。後期はあるけどりあえず私の受験は終わった。もう二度と経験したくないぜ大学受験☆よし、明日から遊ぶぞ!!1番に教室を出て大学を後にするも、この時、サスペンダーがとれてひきずりながら歩いていることに気付かないまま西門で母親に遭遇。爆笑される。

《～発表》

後期一橋対策を1秒もせずに迎えた3月10日。掲示板を見て一喜一憂する予定だったが、不合格だったらSuicaのチャージ金額がもったいないと感じ中央線の電車の中で合否を確認、結果は無事合格。電車の中で潤む。さあ掲示を見に行くぞ!と喜んでいたらまたしても特快に乗っていたため立川まで行って折り返しました(笑)

《後期試験では・・・》

○3月10日（2日前）

学校で自習していたため、学校のPCにて前期不合格を確認。覚悟はしていたがやはり落ち込み、泣きなくなったがここは我慢。合格発表の2日後に後期試験というスケジュールを恨む。後期に対してはベストを尽くそうという気持ちと記念受験という気持ちが半々だった。先生や友人に励ましてもらい、午後は早めに帰って翌日の上京の準備をする。この日はごく普通に眠る。

○3月11日（1日前）

朝早くの便で上京して友人と一橋へ。下見の案内をしてくれた先輩と出身地が偶然一緒だったことが分かり、夕食をご馳走される。ビーフストロガノフが美味しかった。先輩からは、動揺していたり悲壮感を漂わせていたりする受験生が多いことを聞き、友人と若干の優越感に浸る。

満腹になってホテルに帰る。「前日に必死で勉強したって無駄」という論理の下、小論文の構成を確認して勉強は終了。以後TVを見る。地元では見たことがない番組があつて面白かった。この日は寝付くのに少し時間がかかったが、プレッシャーのせいではなかったと思われる。

○3月12日（1日目）

いつも通りに起床。特に異常なし。和食になぜか時間がかかり、結構ぎりぎり。部活が配っているお菓子やティッシュはくれる分だけもらって試験室へ。試験室についたら全部の椅子の半分くらいにしか人がいなくてあせった。前期でこんなに合格したのか…とビビる。とりあえずトイレをすませてからもらったお菓子を完食。食い足りずに持ち込んだチョコレートにも手をつける。試験問題が配られるが、開始までの時間が長すぎて退屈だった。

ついに英語の試験が始まる。自分の時計とぴったりの時間に始まることは前期で調査済みなので、落ち着いてとりかかる。問題を一通り見てみると昨年とほぼ同じだった。とてつもない文量の長文は冷静にスルーして、まずは英作文だ。タイトルをみて直感でネタが思いついた3番を選択。ネタが続かなくて困ったが、なんとか語数をクリア。次はリスニングの問題を確認。前期と同じくリスニングの要約があることが分かって落胆。内容だけ確認して英語の穴埋め問題へ。3分の1くらい読んだところでリスニング。正誤問題はうっとうしかったし、要約は理解不能だった。即単のCDを聞いて来なかったことを後悔する。

リスニング後は穴埋め問題を解いたが、時間の都合で1問放置して長文にとりかかる。環境問題の話題で、以前に聞いたようなことも書いてあったので比較的やりやすかった。英文和訳もなんとか解いて8割くらい読んだら残り5分になっていた。最後のほうは全く読めなかったが、解答欄だけは埋めようと思って作り話を書き込む。長い解答欄に書き込んでいた途中でチャイムが鳴って試験終了。全ての解答欄を埋められず、現実の厳しさを思い知る。

昼食をとって午後からは小論文。問題を見ると昨年と同じ400字要約と1400字意見論述だ。少し安心する。要約は瞬殺して意見論述に移る。国語の先生に教わったとおりに400字で本文の分析を書く。なんだか書きにくかった。400字書いたところでいよいよ自分の意見を書く。順調に書き進めていたが突然シャーペンが止まる。書くことが無くなってしまった。ネタ作りのために今まで自分が書いた文を見直してみる。何も思いつかないし、「話題と違う方向に自分の話が暴走

しているのではないかと疑心暗鬼に陥る。そのままフリーズ。

数分後、「今から別のことを書こうとしてもどうせ書けないからこのまま書き進めよう」と開き直る。つらつら書き進めていたところで「作文では制限字数の8割書きましょう」と中学生のときに言われたことを思い出す。 $1400 \times 0.8 = 1120$ 字。残り200字だと分かり気合で字数を達成。残り10分だったため誤字脱字の確認をして終了。とりあえずまともに書いて嬉しかった。

ホテルへ帰って近くのファミレスで晩御飯を食べる。喫煙席だったのでタバコがきつく、喉を痛めてしまう。ホテルの加湿器は在庫切れだったので、濡らしたタオルをたくさん干す。前日の論理を適用して今回も勉強はほとんどしなかった。この日はあっさり就寝。

○3月13日(2日目)

この日もいつもどおり起床。喉がまだ痛い。朝はバイキングでたくさん食べて余裕をもって国立に着く。2日目もお菓子とティッシュをたくさんもらいテンションあげる。前日と同じくお菓子を食い尽くして試験開始。

とりあえず問題を見回してみるが、どれも大変そうだったので〔1〕から順番に解くことにする。(1)は瞬殺。(2)は途中まではいい感じだったが分からなくなり断念。〔2〕に移る。〔2〕は問題の意味を理解するのにだいぶ時間がかかる。日本語で説明しにくかったので、図を描いて(1)はクリア。(2)は(1)と似たような問題だったが分からず、図を描いて終了。〔3〕は微分を使うということ以外は全く分からなかった。完全に無駄な時間を過ごして挫折。〔4〕は時間をかけてだいぶ考えたが、答えとなる座標がカオスになりそのまま終了。試験時間は残り10分。

最後に残っていた〔5〕が実は一番簡単だった。しばらく考えたら(1)はすぐに分かり、瞬殺。(2)もすぐに分かったが残りはずか2分。完答を目指して必死で書き込むが残り1分。完答は諦めて考え方だけを書いて試験終了。自分の不甲斐なさを激しく後悔し、浪人への覚悟を固める。

後期試験を以って今年の入試は終了したのだが、数学での失敗のため全然うれしくなかった。午後から友人と一緒に都庁と浅草を観光する。浅草寺のおみくじは友人と同じく凶だった。「浪人しても絶対に一橋の後期は受けない」と決意を新たにして飛行機に乗って地元へ帰還。

●最後に

後期試験を受験して手ごたえなど皆無だったのですが、自分は後期で合格しました。「なんでこんなやつが受かったんだ!？」と疑問に思う方が多いと思います。自分もいまだにそう思います(笑)しかし自分なりに勝因を考えてみると、「諦めなかったこと」だと思います。某バスケット漫画にもあるように「諦めたらそこで試合終了だよ」なんです。分からない問題があってもそれを白紙のままに出したら0点です。採点の手間が省けて採点者を喜ばせるだけです。すぐもったいないと思います。何を書いても他の部分での得点がマイナスされることは絶対にないのだから、何か書いて答案を埋めてみてください。後期では特にそういう執念とか根性とか気合が結果を左右すると思います。頑張ってください☆